

第 342 回金沢眼科集談会 プログラム

日 時 平成 30 年 12 月 16 日 (日) 13:00~16:00

会 場 金沢ニューグランドホテル 4 F 金扇の間

〒920-8688 金沢市南町 4-1 電話:076-233-1311

連絡先: 〒920-8641 金沢市宝町 13-1 金沢大学眼科学教室

電話 (076)265-2403 FAX (076)222-9660

mail: ganjimu2@med.kanazawa-u.ac.jp

ご案内図



- ・ 参加費は 2,000 円です。
- ・ 集談会終了後、懇親会(会費無料)を予定しております。
- ・ 本学会は専門医制度生涯教育事業 (No.59003)として認定されております。
- ・ プロジェクターを一台用意いたします。パソコンはご自身のものをお持ち下さい。
- ・ 「眼科臨床紀要」に掲載しますので演者の先生は抄録(400 字以内)をメールにてご提出下さいますよう、お願いいたします。

共催: 金沢眼科集談会 参天製薬株式会社

— 次回ご案内 —

平成 31 年 4 月 14 日(日)10:00~13:00 金沢大学附属病院宝ホールにて開催の予定です。

一般講演

(13:00~14:00) 座長 うえだともこ コンソルボ上田朋子 先生 (富山大)

1. 東電福島第一原発緊急作業従事者に対する疫学調査 事故後 3-6 年までの白内障調査結果

はつきかなつこ
○初坂奈津子1)、宮下久範1)、久保江理1)、喜多村紘子2)、大久保利晃2)、佐々木洋1)
1) 金沢医科大 2) 公益財団法人放射線影響研究所

2. Pachychoroid neovascularopathy 症例に対する光線力学療法

うえだともこ
○コンソルボ上田朋子、阿部慎也、尾崎弘典、大塚光哉、柳沢秀一郎、林 篤志 (富山大)

3. 福井大学におけるカークデュアルブレードの術後短期成績

おりいゆうすけ
○折井佑介、岩崎健太郎、稲谷 大 (福井大)

4. 当院における緑内障点眼治療開始後の通院脱落に影響を与える因子の 検討

さいとうよしあき
○齋藤代志明(さいとう眼科)

特別講演

(14:00~14:45) 座長 すぎやまかずひさ 杉山和久 (金沢大)

「網膜剥離について」

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 感覚器病学講座眼科学分野

さかもと たいじ
教授 坂本 泰二 先生

一般講演

(14 : 45~15 : 15) 座長 ひろせ まき 広瀬真希 先生 (福井大)

5. OCT Angiography (OCTA)による黄斑部網膜血管密度と中心視野の関係

○なかにゆうすけ中谷雄介^{1,2)}, 東出朋巳¹⁾, 大久保真司^{1,3)}, 杉山和久¹⁾

1) 金沢大 2) 氷見なかに眼科 3) おおくぼ眼科クリニック

6. 「コンタクトレンズ管理手帳」の現状と今後の展望

○もちつきゆうじ望月雄二 (石川県眼科医会、医療法人社団望月眼科医院)

特別講演

(15 : 15~16 : 00) 座長 もちつきゆうじ 望月雄二 先生 (石川県眼科医会、医療法人社団望月眼科医院)

「(公社)日本眼科医会の活動テーマ

—医師の働き方改革への対応を中心に—

公益社団法人日本眼科医会

しらね まさこ
会長 白根 雅子 先生

「網膜剥離について」

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 感覚器病学講座眼科学分野
教授 坂本 泰二 先生

網膜剥離は眼科外科学で主流を占める疾患である。近年の手術の進歩により、初回手術による網膜復位率は、90%を超えようとしている。しかし、黄斑剥離した場合の視力回復は依然として不良であり、そのメカニズムを解明する研究は続いている。その中から、我々が取り組んでいる damage associated molecular pattern に対する研究を紹介する。さらに、その知見を利用した soft shell vitrectomy という手術法も紹介する。

一方医学研究はビッグデータと人工知能の登場により大きく変化している。日本眼科学会、網膜硝子体学会もその点を認識して取り組みを開始している。本講演ではその中で網膜剥離についてのレジストリーデータについて解説する予定である。

「(公社)日本眼科医会の活動テーマ

—医師の働き方改革への対応を中心に—

公益社団法人日本眼科医会

会長 白根 雅子 先生

日本眼科医会（以下、本会）は本邦の臨床医会第一号として1930年に発足した。設立時の趣意書に「吾ら眼科医は複雑に動く社会に対応するために一致団結することが重要」と記載があり、今日に至るまで国民の目を守るために切れ目のない活動を続けている。

研究、専門医の育成、学生の教育というアカデミアの分野を担う日本眼科学会の活動に呼応して、地域の眼科医療の質を担保し眼科医をサポートすることが本会の役割の軸であると考えている。

現在、医師の働き方改革が社会の課題の一つとなっている。40歳以下では眼科医数の50%を女性が占めており、眼科地域医療を守るためには女性医師がキャリアを失わない環境形成が必要で、そのための病院勤務医全体の負担の軽減は必須である。地域の眼科救急医療体制の構築、病院での眼科医の立場の支援など、日本医師会や関連省庁、特に都道府県眼科医会としっかり連携して本会の役割を果たしたい。

また、眼科医は全医師数の4%にすぎず、本会の活動や会員が置かれた現状を積極的に発信して社会の理解を得る広報力の強化も重要であると考え、会務を進めているところである。

以上の点を中心に、本会の活動の現況と方針をお示しする。